

令和3年度 琴芝小学校校内研修

研修部

1 研究主題

一人一台端末の ICT を活用した授業づくり
～「主体的・対話的で深い学び」を実現するために～

2 研究主題設定の理由

昨年度より、平成29年公示の学習指導要領が全面実施された。これからの教育では知識の量より、自ら学んでいける力や意欲を伸ばすことが重要とされており、教員には新しい時代を担う人材に求められる資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが求められている。昨年度の新型コロナウイルス流行のような予測不可能な未来社会を児童が自律的に生きていけるような学びにつながる授業づくりをめざしていく必要がある。

本校は過去3年間でICT環境が整い、ICTの活用について研修を続けてきた。その結果、児童も教員もICT機器の扱いには慣れ、使用できるようになった。拡大提示のような視覚支援で使うだけでなく、プログラミング教育による情報活用能力の育成、ロイロノートによるプレゼン作成、児童教師間や児童相互で通信機能を利用したやり取りもできるようになってきている。

このようなスキルを身に付け、与えられた課題にまじめに取り組むことのできる本校児童だが、自ら課題をつくりだしたり、学びから新たな課題へつなげたりすることが難しい。そこでもっと主体性を伸ばして自ら学んでいける力を身に付けさせたい。

そのために今年度GIGAスクール構想で貸与される一人一台端末を「主体的・対話的で深い学び」を実現させる手段として活用し、ユニバーサルデザインやカリキュラムマネジメントの視点も取り入れた授業づくりをしていく。それにより、どの児童もICTを鉛筆やノートのように日常的に扱い、進んで学習に生かす姿を見ることができるようではないかと考える。

主体的な児童の姿をめざすため、今年度主に以下の二つのことに取り組む。

一つ目は、授業の振り返りの電子化である。振り返りの内容をクラウドに接続されたPCやタブレットに残していく。教師にとっては、全員の見取りが容易になる。児童は振り返りを提出することで全員とネットワークでつながり共有でき、友達の考えを読み、自分の考えを広げることができる。それをくり返し続けることで自分の考えを主体的に表現できるようになる。また、振り返りの内容を「①主語述語等文法の正しい文章で書く。②箇条書きで分かりやすくまとめる。③まとめた内容を説明する。」ことができるかで評価することができる。

二つ目は、中学校・高等学校で始まった探究的学習につながるような授業スタイルの改善である。従来のスタイル「課題提示→個別学習→集団学習→まとめ、振り返り」から、課題提示を振り返り後に行い、課題解決の手立てを考えさせるまでにすることである。それにより、持っている端末を使ってインターネットで調べたり、教科書や資料、聞いたことなどを保存して残したりと、解決に向けて様々な方法を考えるようになる。この授業スタイルを実践することで、学びに対する児童の変容を検証することができる。

これらの実践を通して主体性を身に付けた児童が、これからの予測困難な社会に進んで関わる姿を期待して、今年度の研修を進めていきたい。

○研修のイメージ

☆ICT の活用により、「主体的・対話的で深い学び」を実現し
児童に、学びへの主体性が身に付いたかどうか検証する

○児童の学習の基盤となる資質・能力の育成

- ・自ら学んでいける力や意欲
- ・ICT を鉛筆やノートのように日常的に扱い、進んで学習に生かす

○授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の実現

○手段

ICT の活用（振り返りの電子化、授業スタイルの改善）

3 研究内容

- ・ICT 活用による授業改善
- ・ICT 活用スキルの育成
- ・振り返りフォームの検討

4 授業づくりの視点

- ・ユニバーサルデザイン…どの子どもも、より理解しやすい授業の工夫
- ・カリキュラムマネジメント

5 研究方法

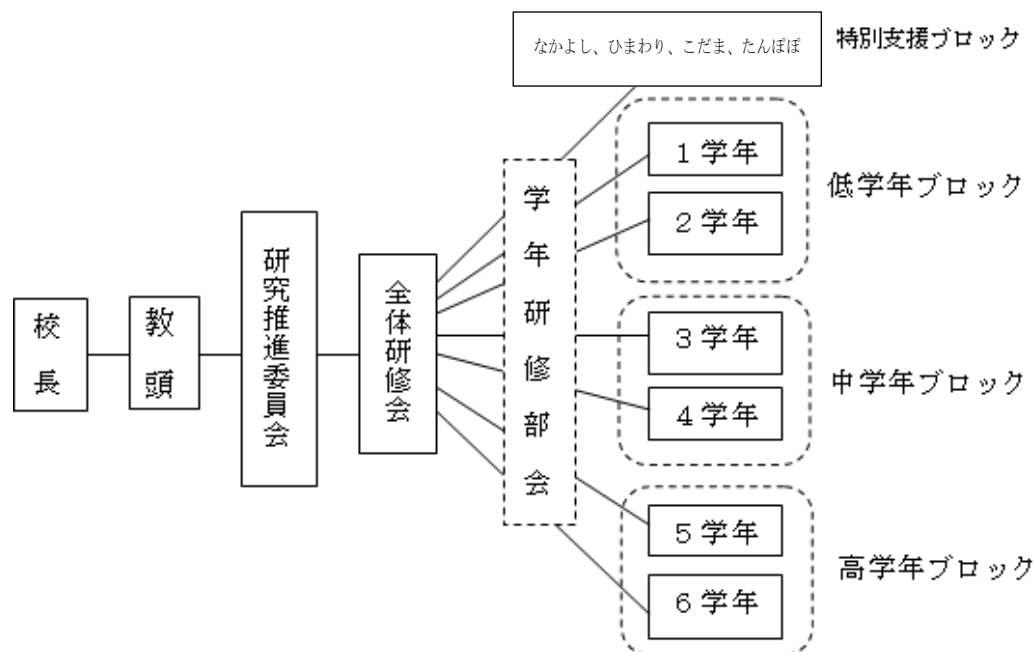
- ① 各ブロックで児童の実態を基に目指す児童像を設定し、ICT を活用する具体的な手立てを考え、授業研究・反省的実践を行う。振り返りフォームのこと
- ② 教師全員が授業を開き、お互いに参観し合うことによって学び合う。
全ての教師が、年1回以上の授業公開を行う。
 - 公開授業研究会（年2回）
【10月25日（水） ・ 11月26日（金）】
 - ・ 研究授業公開（5校時）、研究協議を行う。
 - ・ 講師より指導を受ける。
 - 自主公開授業研究会（各ブロック年3回）
 - ・ 研究授業公開、研究協議をユニット型で行う。
 - ・ 日程は各ユニットで決定し、協議においては、学力向上推進リーダーの指導を受ける。

6 研究組織

研究推進委員会は、校長、教頭、教務主任、研修主任、各ブロック 1 名の研究推進委員で構成する。

研究推進委員会において、研修の方法の立案と提案、授業研究会の運営、授業評価に基づく研究の成果と課題のまとめを行う。

・低学年 B（担任、教務主任）・中学年 B（担任、栄養教諭）・高学年 B（担任、養護教諭）



○指導案について

指導案形式…2021 研修 → 指導案 内にあります

7 研修計画

時 期 (月)	研究活動	内 容
5	校内研修	タブレット端末の操作と児童の活用
6	学力向上推進リーダーによる研修	カリキュラムマネジメント・地域連携教育についてについて
7	学力向上推進リーダーによる研修	学びのユニバーサルデザインについて
8	外部講師による研修	これからの ICT 活用について
9	外部講師による研修	授業づくり検討
10	校内授業公開研修会	公開授業
11	実践研究発表会	公開授業×2
2	校内研修	実践・研修の振り返り

※各ユニットの自主公開授業研究会は日程未定。